

いにしえのロマンが眠る古代遺跡

石城山神籠石

市民特派員
レポート

だれがいつ、何のためにつくったのか。石城山の8合目付近を鉢巻き状に取り巻く、国の史跡「石城山神籠石（いわきさんこういし）」は、延長約2.6キロにもおよぶ長大な列石の古代遺跡。東西南北には石垣壁が築かれ、その下部にはそれぞれに水門が設けられています。こうした「神籠石」は、ほかにも九州北部を中心に分布していますが、いずれも文献に記録がなく、今もなお多くの謎に包まれた遺跡です。今回は、私たち市民特派員が、「石城山神籠石」に詳しいお二人を取材し、謎とロマンを秘めた古代遺跡を探ってみました。

神籠石はさまざまな可能性を秘めた 私たちの貴重な財産

今も人々の心をとらえる神籠石

豊嶋 松岡さんは、旧大和町で教育長をされていましたが、「石城山神籠石」との関わりについて教えてください。

松岡 教育長を務めていたとき、町史編纂と文化財保護条例制定に関わ

り、文化財の調査をしたのがきっかけで「石城山神籠石」に興味を抱きました。最近では、市の成人大学講座などでお話する機会があり、私なりに少し掘り下げて調べています。

豊嶋 神籠石は、いつ、何の目的でつくられたのでしょうか。

松岡 神籠石は文献に記録がないた

め、謎を秘めた遺跡として明治時代から考古学者の間で論争されてきました。「山城」であったという説や、祭祀を行う「神域」であったという説がありますが、昭和30年代の発掘調査で、古代の山城遺跡という説が有力となりました。しかし、つくられた時期などは定かではありません。

昭和54年と58年には、作家の松本清張さんがこの石城山に登られました。二度目の時は、私も一緒に一緒させてもらったのですが、その時に石を指差して「神籠石の表面がきれいに仕上げられているのは、完全に人に見せる、人の眼を意識してつくられている。」と指摘されました。

豊嶋 やはり石に特色が見られるわけですね。

松岡 そうです。並んだ石の高さがきちんとそろっているというの、外観を意識していると思われま

ました。その結果、神籠石は七世紀前半に神域を囲む垣として築かれ、七世紀後半に唐・新羅の侵攻に備え、この神籠石を利用して土塁をつくり、山城としたという「時差神域説」を提起されました。

このように神籠石は、今もなお多くの謎に包まれ、人々のロマンをかき立てています。

豊嶋 ところで、神籠石の表面がきれいなのは、鉄のような道具を使って磨いたのでしょうか。

松岡 そうですね。石は石城山にあったものと言われていますが、やはりノミのようなものを使って、長い時間をかけて仕上げたのではないのでしょうか。百済の国の影響も考えられます。そういう視点も含めて、神籠石はなかなか面白いものだと感じています。

豊嶋 本当に長い間、神籠石は多くの人たちの心をとらえているんですね。ほかのまちにも、このような神籠石はあるのでしょうか。

松岡 国の史跡に指定され「神籠石」と呼ばれているものが、ほかにも全国で8か所あり、それぞれがまちの貴重な歴史的財産として保存されています。（次頁の分布図参照）

私も、石城山には石城神社があるし、ただの山城説よりは、興味深い視点ではないかと思っています。

そして最近、広島県埋蔵文化財調査センターが現地を何度も調査し

ました。その結果、神籠石は七世紀前半に神域を囲む垣として築かれ、七世紀後半に唐・新羅の侵攻に備え、この神籠石を利用して土塁をつくり、山城としたという「時差神域説」を提起されました。

このように神籠石は、今もなお多くの謎に包まれ、人々のロマンをかき立てています。

豊嶋 ところで、神籠石の表面がきれいなのは、鉄のような道具を使って磨いたのでしょうか。

松岡 そうですね。石は石城山にあったものと言われていますが、やはりノミのようなものを使って、長い時間をかけて仕上げたのではないのでしょうか。百済の国の影響も考えられます。そういう視点も含めて、神籠石はなかなか面白いものだと感じています。

豊嶋 本当に長い間、神籠石は多くの人たちの心をとらえているんですね。ほかのまちにも、このような神籠石はあるのでしょうか。

松岡 国の史跡に指定され「神籠石」と呼ばれているものが、ほかにも全国で8か所あり、それぞれがまちの貴重な歴史的財産として保存されています。（次頁の分布図参照）

大きな石が整然と立ち並ぶ「北門付近の神籠石」



光市文化財審議会副会長
まつおか のぶお
松岡 宣夫さん



市民特派員
とよしま みきこ
豊嶋 美貴子さん

神籠石を守っていくには...

豊嶋 最後に、私たちは、これから